

2023年11月のブルーベリー農園その4

2000年からブルーベリー農園を営んでいる。東広島市豊栄町のブルーベリー農園まで安芸区の自宅から週末に通うのだが、夏場と違って朝は遅く、帰りは日が暮れるの

が早いので作業は午後が中心になってしまう。夏の賑わいはすっかりなく、近隣の農作業もみることはなく、生き物の動きは落葉のかさかさする音くらいで、寒くはないがしんみりとした気配が漂うなか、早生のブルーベリーの葉が落ちて枝だけになってきたのでブルーベリーの剪定作業を始める。



11月23日（木）

祝日なのでこの日も農園に行く。剪定したブルーベリーの枝を野焼きしたり、里山の早生のブルーベリーの剪定を続ける。



3段あるブルーベリー畑の一番下の畑と隣の休耕田。紅葉したブルーベリー畑と、夏の草がすっかり枯れた休耕田と。



11月25日（土）

里山のブルーベリー園の剪定作業を続ける。早生のブルーベリーでまだ葉のついている木は落葉するまで剪定をもう少し先にする。



里山の早生のブルーベリーのエリアは2002年に植えたので木が古くなってきており思い切って根元から切っていく。中にはシンクイムシの被害で穴の開いた枝もありそこに細い枝を差し込んでおいた。



11月26日（日）

ブルーベリーの剪定作業の前に、数年ぶりに農園の花壇のスイセンの球根を掘り上げた。株分けをしてブルーベリー畑に植えた。





畑にはもう花の咲く野の花はホトケノザくらいしかない。

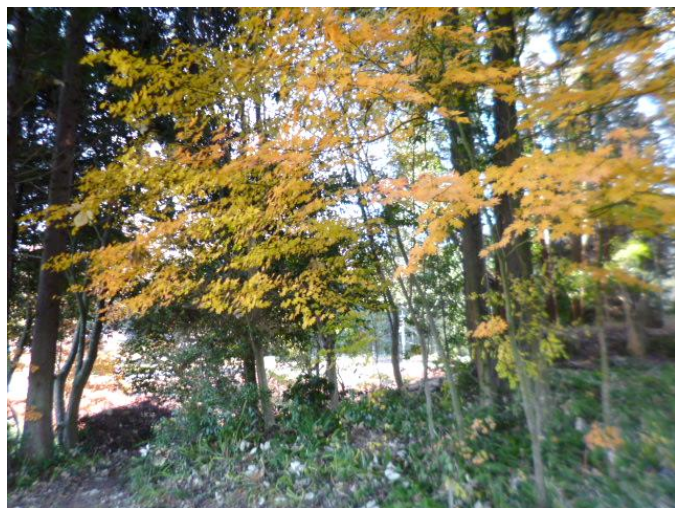


里山の早生のブルーベリーの剪定を続ける。切った後枝が乱れないようにビニールハウスで使われるハウスバンド（マイカ線ともいう）で数か所くくる。これまで使ってきた麻ひもは夏の実がたわわにつくと重さで切れることがあるので今シーズンはこれで縛っていく。

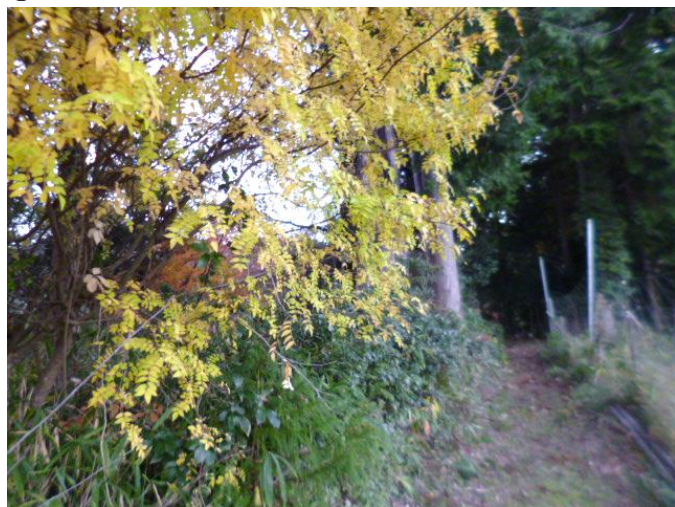


農園の周囲の晩秋。

① ブルーベリー畑の紅葉。赤みが一段と増してきた。



② 里山のカエデの紅葉



③ 里山の里道沿いのサンショウの紅葉



④ 5時10分頃の農園に出た月。5時半には辺りはすっかり暗くなる。

2023年11月30日
社会福祉法人安芸の郷
理事長 遊川和良

《2023年11月30日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》